

東京都 八王子福祉園

設置年月：昭和47年4月1日
所在地：〒192-0153 東京都八王子市西寺方町76番地
事業内容：指定管理事業 第1種社会福祉事業 障害者支援施設 定員160名
生活介護 定員180名（入所160名・通所20名）
短期入所事業 定員10名
自主事業 第2種社会福祉事業 第2種社会福祉事業 特定相談支援事業

http://www1.ttcn.ne.jp/

八王子福祉園



八王子福祉園は、利用者一人一人が安心して生活し、楽しく活動することができる安全・快適な環境づくりを進めるとともに、民間施設では対応が難しいニーズにも全職員が積極的な取り組みを進めています。

Staff Interview

医療支援が必要な方や高齢の方が生活されているため、医療面において特別な配慮が必要になります。

8係は重介護棟に所属され、胃ろう設置者が7名、経口摂取者が8名。平均年齢は54歳となっています。27年度のバスハイクは、8係では初めて利用者様全員で参加しました。今までのバスハイクでは、胃ろう設置者は参加できませんでした。しかし、私自身「私が利用者様なら、バスハイクに行きたい！」と言う気持ちになり、話をしてみると他の職員も同じ思いを持っていたことがわかりました。そこで、全員参加に向けてなぜできないか理由をあげ改善していく取り組みをしました。普段、胃ろう支援に当る健康推進科や他係との調整、利用者様と職員を2班に分け、一部職員が2班掛け持つといった工夫で職員の手をあくしました。虚弱傾向の利用者様が多いため、外出先ではグループ行動を基本として、不測の事態に複数の職員で対応できるよう連携し、また、歩行できる利用者も、時間や範囲を決めて個別で行動できる工夫をしました。

当日は体調不良者もなく、無事全員で参加できました。初めての試みだったため、健康推進科や8係内で何度も話し合い、職員が一丸となって全員参加に向けて取り組みました。これからも、利用者様の立場となって、より良い日々の暮らしを考え、提供していきたいと思っています。

利用者様とのコミュニケーションが難しい為、利用者様の立場になって支援するよう心掛けています。また、時間にとらわれ過ぎず、ゆっくり丁寧に関わることも大切にして、利用者様の思いを汲み取れるよう努力したいと思っています！！

全員でバスハイクへ行ってきました！

胃ろうとは…

口から食事のとれない方や食べてもむせ込んで肺炎などを起こしやすい方に直接栄養を入れるためにお腹につくった小さな口のことを言います。鼻からのチューブに比べ、本人の苦痛や介護者の負担が少なく、のどにチューブがないため、口から食べるリハビリや言語訓練が行いやすいというメリットがあります。

支援第八係
廣瀬 智田さん（3年目）

園には様々な障害特性がある方が入所されています。また、入所されている利用者の平均年齢も年々高くなっており、求められる支援も多様化しています。今回は特色のある支援を行っている棟の職員の方に日々の業務や、やりがいについて話を伺いました。

相談支援室『ポレポレ』にインタビュー！！

八王子福祉園の地域に向けた“顔”として大切な役割を果たしている相談支援室『ポレポレ』のコーディネーターお二人にインタビューをしました！

Q—まず、『ポレポレ』の名前の由来は？

沢田：スワヒリ語で『ゆっくり、のんびり』という意味で、職員公募の中から利用者様の一人に選んでいただきました。

Q—相談支援事業とはどんなお仕事ですか？

沢田：主に八王子市にお住いの障がい当事者の生活についての困り事や、福祉サービスに関する相談を受け、支援を行っています。

—なるほど。支援者がゆったりと構えて、相談する方が安心感を持てるようにと、この名前が付けられたんですね！



左から沢田哲也さん（8年目）、中美大輔さん（13年目）
非常勤山下純子さん（3年目）

Q—お二人は、地域コーディネーターも兼務されていますが、コーディネーターはどんなお仕事ですか？

中美：コーディネーターは、園利用者の地域生活移行を進める役割、園と地域を結ぶ窓口としての役割を持っています。

Q—とても大切な役割ですね！このコーディネーターに任命された時の心境は？

沢田：「やったー！」相談支援の仕事希望していたので、嬉しかったです。

中美：突然の辞令で、「無理だ〜！」と思いました。8割くらい不安でしたが、どんな経験値を積めるだろうかという期待も2割くらいあったかな？（笑）

—ものすごく対照的ですね（笑）そんな対照的なお二人だからこそ、お互い補い合って良いチームになっているのですね！

Q—最後に、これからの意気込みを川柳で教えてください！

広げたい みんなの笑顔と 町づくり 沢田哲也

支えたい こんな私で 良かったら！ 中美大輔

Staff Interview

強度行動障害などをもち、特別な支援が必要な方が生活されている棟の支援では、高い専門性が求められます。

私は八王子福祉園で働き始め現在で2年目になります。1年目に自閉症スペクトラムの利用者様の担当になり、知識も経験もなかった私は利用者様の行動を理解することが出来ず、どのような支援をしたら良いのかが分かりませんでした。そこで先輩職員に話を聞き、過去の記録の振り返り、自閉症スペクトラムに関する本を読んで少しずつ利用者様のことが分かるようになりました。しかし、分かるようになったとは言ってもほんの一部であり、利用者様の行動も日々変わっていきます。その日々変わっていく利用者様に寄り添い、支援をすることで利用者様の笑顔を引き出すことが出来ると思っています。

先輩に聞くこと、本から学ぶことも、もちろん大切です。その知識、経験からこうしたらもっと利用者様を笑顔にできるのではと自分なりに支援を工夫して、失敗して、先輩に相談して、また工夫して。その先に利用者様の笑顔が見られた時に最高にやりがいを感じます。

利用者様の笑顔が
やりがいに！



支援第九係9棟
岩澤 優佑さん（3年目）

自閉症スペクトラム障害（ASD）とは…

自閉症、アスペルガー症候群、その他広汎性発達障害が含まれます。この障害のある方は相互的な対人関係の障害、コミュニケーションの障害、興味や行動のこだわりの3つに特徴が現れます。生まれつきの脳の機能障害が原因と考えられており、症状の強さによっていくつかの診断名に分類されます。しかし、これらを明確に区別することが難しいため自閉症スペクトラム障害に一本化されることになりました。

八王子福祉園 OJT の取り組みから

八王子福祉園では、OJTの取り組みとして、新人職員にトレーナーをつけて、サポートに当たっています。

丁寧に利用者様とのかかわり方を教えてください。さるトレーナーや先輩職員のおかげで、楽しく働いています。これから、少しでも利用者様や職員の皆様の力になれるように努力していきます。

のい
中川 洋平さん
（平成27年4月1日入職）左



トレーナー
望月 伊織さん（9年目）右

利用者様にとっては、1年目も8年目も関係ありません。そんな中、一生懸命利用者様支援をしている新人職員さんを見ていると励みになり、自分の利用者様やチームを支える力の原動力になっています！

八王子福祉園 2015年度ベストショット

●1月
お正月の福笑い大会の一コマです！1棟



●6月
八景島シーワールドでイルカショーを見てにっこりです！5棟



●7月
盆踊り大会は、自治会と共催で行われます。4棟



●7月
ばっちり笑顔です！9棟



●8月
ホビー活動で、スイカ割りを行いました！活動支援係



●8月
棟での花火大会をしました。やっぱり夏は花火です！6棟



●8月
花火大会の様子。のいでは、毎年の恒例行事です！のい



●5月
奥多摩湖への外出。新緑の山々が綺麗でした！3棟



●10月
全棟バスハイクを10月に行いました。ぶどう狩りの途中、ツーショット写真です！7棟



●10月
全棟バスハイクで東京スカイツリーに行ってきました！通所とも



●10月
ハロウィンカフェしました！職員が焙煎した豆のコーヒーを楽しみました。10棟



●11月
福祉園祭のフィナーレのダンスをお揃いのTシャツを着て楽しみました！Be



●12月
12月毎年恒例のクリスマスパーティーをしました！らら



●2月
喫茶店でジュースを飲んでゆったりすごしました！8棟



事業団1年生！振り返ると…

片瀬学園

Q1. 今担当している仕事について

わたしは現在、幼児さんから高校生まで8名の子どもが生活するけやき寮に勤務し、児童の個別対応や関係機関との関わり、行事等の起案作成等を行っています。私は、子どもとの個別の時間を大切にしています。個別の時間を活用し、外出したり2人でお話をしたり、そういった活動を行うことで、子ども達一人一人が「自分は大切にされている。」と実感できるような環境作りを目指しています。また、各寮で行なう宿泊行事では、温泉とディズニーランドに行き、子ども達と共に楽しんできました。初めて遊園地に行く子どももあり、「楽しい!」「来られてよかったね!」と言って、食事や乗り物、買い物で大いに楽しんでいる様子でした。

Q2. 今だから言える不安だったこと

わたしは、実習などで養護施設に関わってこなかったため、知識も経験もほとんどありませんでした。そんな中、先輩職員からの助言や子どもたちの成長、研修などから沢山の事を学び、経験をしていくうちに、少しずつ不安も解消されました。また先輩職員のおかげで、児童とも良好な関係も築くことが出来ています。

Q3. 事業団のココが好き!

率直に意見交換をすることが出来る先輩職員に出会うことが出来ました。児童と過ごす時間や行事が多いです。研修や事例検討発表会、自立支援施設の見学に参加させて頂きました。



片瀬学園 (養護係)
長谷川 佑佳さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

勝山学園

Q1. 今担当している仕事について

私が担当している仕事は、主に児童の生活支援で、地域交流委員、小学生横割り活動にも携わせて頂いています。児童の生活支援は、言葉の通り衣食住に関する生活の支援はもとより各児童の課題を成長にあわせ解決できるよう計画を立て、その計画に沿った支援をするなどが大きな仕事です。また、地域交流委員や小学生横割り活動では納涼祭、長寿会との交流会、夏季鎌成など様々な行事の運営に関わっています。

一年目という事があり、全てが初めてで、先輩職員について行くのに必死でしたが、今年度で得た知識を来年度から活かせるよう取り組んでいきたいと思っています。

Q2. 今だから言える不安だったこと

短期大学卒業後すぐに働くという事で、新しい環境に慣れることができるだろうか、こどもたちとうまくやっていけるだろうか、など多くの不安がありました。

しかし今では、仕事の難しさを感じる事もありますが、児童の生活を支援する事をはじめとして、すべての仕事について新鮮味があって楽しく働く事が出来ています。

Q3. 事業団のココが好き!

先輩職員の方々は優しく、相談しやすい雰囲気のため、わからない事や、時には仕事以外の話も出来ます。これは新人にとって、働きやすい職場だなと感じています。一言で言うなら職場の風通しの良い所がとても好きです。



勝山学園 (養護係)
須藤 匠さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

新任職員へのメッセージ

まずは1年間お疲れ様でした。全ての事が初めての中、本当に積極的、意欲的に仕事に取り組んで頂きこちらも助けてもらう事が多くありました。子どもの事を真剣に考え、一緒に笑ったり、悪い事をした時は注意をし、時には頑張りすぎて涙を流すなど、子どもに寄り添った支援が印象的でした。仕事をしていく上で今後も辛いことはあると思いますが、みんなで乗り越えていければと思っています。



片瀬学園 (養護係)
小松原 万里さん (6年目)



勝山学園 (養護係)
鈴木 綾菜さん
(7年目)

新任職員へのメッセージ

加藤さんと初めてお会いした時は、さわやか好青年、若い女子にはモテそうな印象でした。この1年、右も左もわからず、忙しい日々には追われながら、どんな時でも子どもたちの話を親身になって聞いていました。

いよいよ4月からは先輩が出来、相談する立場からされる立場に変わります。

子どもたちと同じように親身になって聞き、「褒める」「認める」時には助言やフォローが出来る職員になることを期待しています。

千葉福祉園

Q1. 今担当している仕事について

現在、勤務させていただいているもうえぎ寮は、42歳から92歳までの幅広い年齢の方が23名生活している女子寮です。中重度寮ではありますが、常時、車椅子を使用する方が3名おり、介助を必要とする一方で、精神科を受診し、精神科薬を飲んでいる方も11名います。様々な障害や病気を持った方々が生活しているので、安全面や健康面には特に注意しながら職員間での引継ぎを行い、利用者さんとの関わりを大切に、利用者さんにとって無理なく、楽しく生活できるように支援しています。

日々安定した生活を提供しながらも、時には外出したり、寮内での誕生日会や年忘れ会等の行事を多く取り入れ、潤いのある生活が持てるよう支援しています。

Q2. 今だから言える不安だったこと

私は、短期大学を卒業するまで千葉県に住んでいました。就職を機に千葉県に引っ越し、千葉福祉園に来ました。社会人になり、慣れない土地で仕事をするという事全てが不安でした。しかし、そんな不安を忘れさせてくれる利用者さん達の笑顔に支えられ、今では毎日楽しく勤務させていただいています。

Q3. 事業団のココが好き!

OJT体制により、様々な研修で学ぶことができ、自分の立てた目標への達成状況をチューター職員と話しあいながら振り返り、今後の支援に役立てることが出来ます。



千葉福祉園 (もうえぎ寮)
三澤 有沙さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

新任職員へのメッセージ

この1年を通して一つ一つの仕事を確実に身に付け、時には機転を利かせた支援を行い、私たちも驚くほどの成長を見せてくれました。今後も自分らしい支援方法を身に付けて、頑張ってください。



千葉福祉園 (もうえぎ寮)
杉田 愛子さん (4年目)



七生福祉園

Q1. 今担当している仕事について

私が働いている福祉型障害児入所施設は、主に中軽度の子供達が入所しています。

子供たちが生活しやすいように文字表記や絵表示などを使い、一人ひとりの障害の特性に合わせた環境設定をし、支援を行っています。一日の流れは起床から始まり、朝食・学校・入浴・夕食・余暇時間・睡眠となっています。体調を崩した場合には通院にも付き添っています。休日には子供たちと外出に行き、一緒に楽しく過ごしています。また、子供の成長を間近で見ることが出来ます。昨日まではできなかったことが今日はできたことで一緒に喜び、学ぶことの楽しさを味わうことが出来ます。そして、児童相談所を始め、学校、病院、家族、実施機関の職員の方々と、子供たちの将来をより良くするために連携しています。

Q2. 今だから言える不安だったこと

最初、障害者施設と決まったとき、どこか全くと想像がつきませんでした。小さいころから関わってはいましたが、職場となると不安で仕方がありませんでした。しかし、やってみなければ分からないという気持ちで強く、気が付いたら七生福祉園に見学へ行っていました。見学に行く子どもたちが歓迎してくれて、不安だったのが楽しみに変わりました。

Q3. 事業団のココが好き!

チューターや先輩職員は、何も分からない私に仕事を丁寧に教えてくれたり、失敗したときも大丈夫だよと優しく声を掛けてくれます。仕事以外でも相談にも乗ってくれます。

チームワークの良い職場に恵まれ、この事業団に入ってからよかったなと感じます。これからも初心と感謝の気持ちを忘れず、職場内で力を合わせて頑張っていきたいと思っています。



七生福祉園 (高年3寮)
柳原 実包さん
(平成 27 年 4 月 1 日入職)

新任職員へのメッセージ

いつも明るく、場を和ませてくれています。仕事に対しても真面目に取り組む、子ども達のことを常に考え、一生懸命頑張っています。子ども達もすぐに柳原さんのことが大好きになりました。分からないことや悩みなどがあった際には、先輩職員にすぐに相談してくれます。今やすっかりチームの一員となっています。今後も子どもと向き合う姿勢を大切に、来年度入ってくる後輩職員のサポートができる先輩職員になってほしいと思います。引き続き一緒に頑張しましょう。



七生福祉園 (高年3寮)
榊 麻美子さん (4年目)

平成 27 年度 事例研修発表会 実施報告

職員の支援技術の向上を図るとともに、多様な課題への取組を共有するため、事例研究発表会を開催しました。民間施設の職員等を含めた参加者から多くの質問や感想が寄せられ、有意義な発表会となりました。

【児童養護施設】平成 28 年 1 月 29 日 豊島区民センター文化ホール

○基調講演 「児童養護施設実践における自立支援と共生支援～社会的養護でいま問われている課題とは何か～」
立教大学コミュニティ福祉学部教授 浅井春夫氏

○事例発表 「障害を持つ子どもの一般企業への就労定着支援」「家庭復帰に向けた支援」「高校生支援」の3事例

【障害者(児)施設】平成 28 年 2 月 25 日 野分地区民ホール

○基調講演 「利用者の意思を尊重した支援～障害者虐待の防止に向けて～」 関西福祉科学大学教授 津田耕一氏
○事例発表 日中活動や生活の場面における利用者支援、地域移行に向けた取組等 6 事例

